

香川県保育士ガイド 潜在保育士研修会

子どもたちとの生活を
豊かに楽しいものにするために

保育士の役割と専門性

1. 保育士に求められる役割と専門性とは

「保育所保育指針」を基に

- ・保育の計画と評価
- ・保育の原理
- ・社会的責任
- ・子どもの発達
- ・保育内容
- ・健康と安全
- ・保護者に対する支援
- ・職員の資質向上

2. 保育所保育指針とは

昭和40年 保育所のガイドラインとして制定

平成 2年 平成12年改定

平成20年 3度目の改定

局長通知から厚生労働大臣による告示

保育所の役割と機能が広く社会的に
重要なものと認められたことになる。

責任が大きくなった証

3. 保育所の役割

(1)保育所保育の目的

(2)保育所の特性

(3)子育て支援

(4)保育士の専門性

4. (1) 保育所保育の目的

保育所は、児童福祉法(昭和22年法律第164号)第39条の規定に基づき、保育に欠ける子どもの保育を行い、その健全な心身の発達を図ることを目的とする児童福祉施設であり、入所する子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場でなければならない。

5. ①子どもの最善の利益

「子どもの権利条約」第3条第1項

5. ②もっともふさわしい生活の場

「すべての児童は、ひとしくその生活を保障され、愛護されなければならない」(児童福祉法第1条第2項)

長時間保育の中で

＜子どもの養護的側面＞を重視

福祉

子どもを取り巻く環境の悪化

だから、保育所の生活のあり方・・・きめ細やかな対応

いろいろな人との出会い、かかわり

6. (2) 保育所の特性

保育所は、その目的を達成するために、保育に関する専門性を有する職員が、家庭との緊密な連携の下に、子どもの状況や発達過程を踏まえ、保育所における環境を通して、養護及び教育を一体的に行うことを特性としている。

7. ①専門性を有する職員による保育

**施設長・保育士・調理員・栄養士・看護師等の
専門性を発揮する。**

7. ②家庭との連携

- ・子どもの24時間の生活を視野に入れ、保護者の気持ちに寄り添いながら、家庭との連携を密に。
- ・保護者の養育力の向上

7. ③発達過程

- ・子どもの発達を年齢で画一的にとらえるのではなく、発達のプロセスを大切に
- ・子どもの育つ道筋やその特徴を踏まえ、発達の個人差に留意するとともに、個別に丁寧に対応する。

7. ④環境を通して行う保育

子ども一人ひとりの状況や発達過程を踏まえ、
環境を整え、計画的に保育環境を整える。

7. ⑤養護と教育の一体性

- ・保育士等が子どもの心をしっかりと受け止め、相互的なやり取りを重ねながら、子どもの育ちを見通し援助する。
- ・手を携え、言葉をかけ、共感しながら一人ひとりの存在を認める。
- ・保育士は子どもを尊重し、命を守り、情緒の安定を図りつつ、乳幼児期にふさわしい経験が積み重ねられている援助。
- ・環境、興味関心、活動、遊びを通してさまざまな能力を獲得する。

8. (3) 子育て支援

保育所は、入所する子どもを保育するとともに、家庭や地域の様々な社会資源との連携を図りながら、入所する子どもの保護者に対する支援及び地域の子育て家庭に対する支援等を行う役割を担うものである。

9. (4) 保育士の専門性

保育所における保育士は、児童福祉法第18条の4の規程を踏まえ、保育所の役割及び機能が適切に発揮されるように、倫理観に裏付けられた専門的知識、技術及び判断をもって、子どもを保育するとともに、子どもの保護者に対する保育に関する指導を行うものである。

10. 保育士の専門性とは

- ①子どもの発達に関する専門的知識を基に子どもの育ちを見通し、その成長・発達を援助する技術
- ②子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識・技術
- ③保育所内外の空間や物的環境、様々な遊具や素材、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく技術

10. 保育士の専門性とは

- ④ 子どもの経験や興味・関心を踏まえ、様々な遊びを豊かに展開していくための知識・技術
- ⑤ 子ども同士のかかわりや子どもと保護者のかかわりなどを見守り、その気持ちに寄り添いながら適宜必要な援助をしていく関係構築の知識・技術
- ⑥ 保護者等への相談・助言に関する知識・技術